



## 避難の心得


いざという時のために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。また、災害の危険性が想定された場合には、情報を入手して、早めの避難を心がけましょう。




**状況により、すばやく避難しましょう**  
避難情報などが発表されていなくても、状況などから判断し、自主的に避難しましょう。




**浸水時、自動車での避難は危険**  
普通自動車は約30cmの浸水で走行困難になります。浸水時、自動車での避難は危険です。




**浸水時に長靴は厳禁**  
避難には運動靴が最適です。長靴は水が入ると歩けなくなります。




**家族には連絡メモを残そう**  
外出中の家族には、「どこどこへ避難する」といったようなメモを残しておくといいでしょう。




**高齢者や子供は防災メモを持とう**  
事前に住所、氏名、連絡先などを記載したメモを用意し、身につけて避難しましょう。



**集団で助け合おう**  
単独での行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。



**持ち出し品は最小限に**  
非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。



**安全なルートで避難**  
避難場所への経路は、川べりや地下歩道などは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。

## 水平避難と垂直避難

災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。そのような場合は、避難場所への移動(水平避難)だけでなく、近隣の高い建物や自宅の2階といった高い場所への移動(垂直避難)を行い、救助を待つという判断も必要です。

**例えば次のような場合、屋外への移動は危険です**

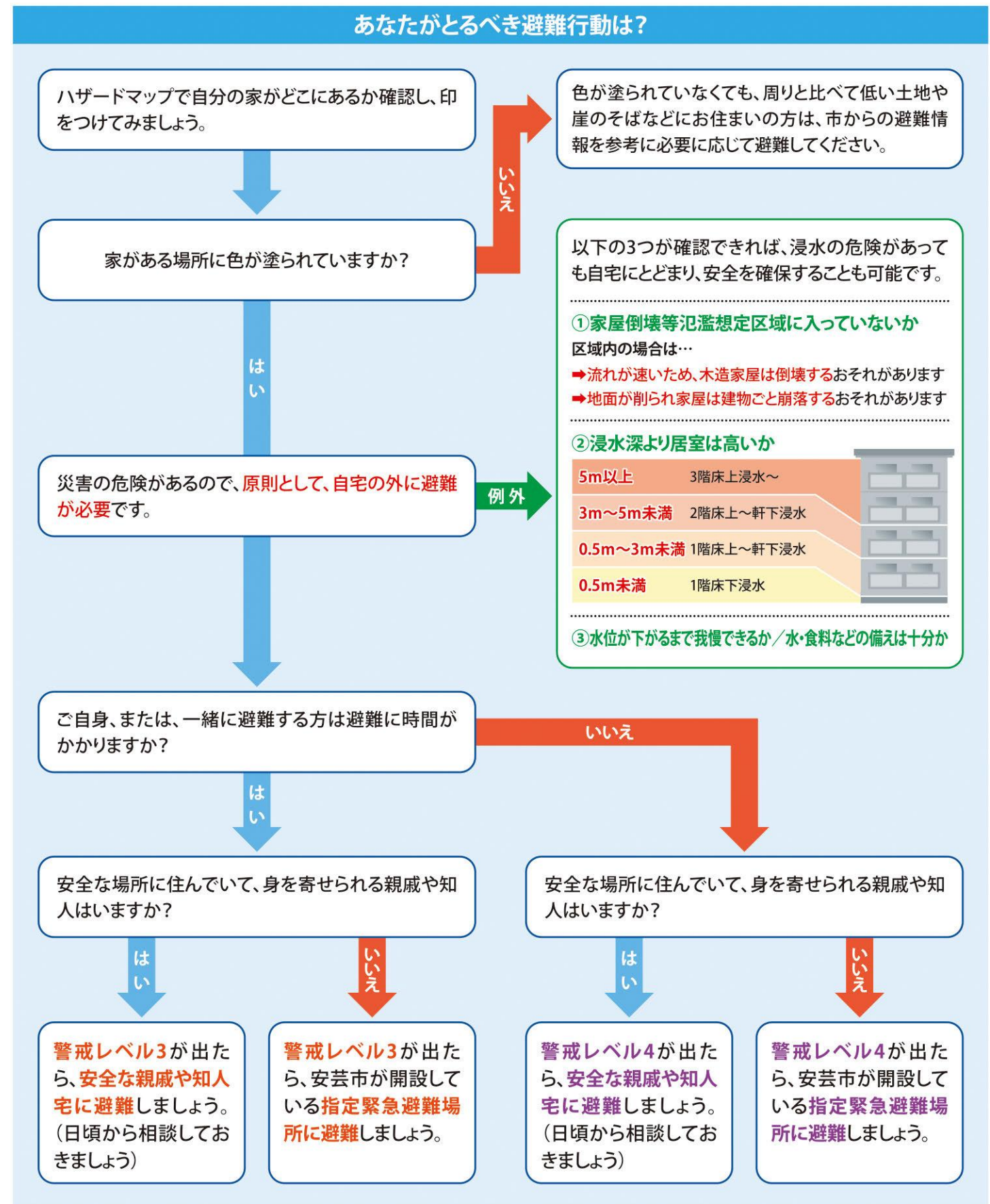
- 夜間や急激な降雨で避難路上の危険箇所がわかりにくい。
- ひざ上まで浸水している(50cm以上)。
- 浸水は20cm程度だが、水の流れる速度が速い。
- 浸水は10cm程度だが、用水路などの位置が不明で転落のおそれがある。

浸水による建物倒壊の危険がないと判断される場合には、自宅や近隣建物の2階以上へ緊急的に一時避難し、救助を待つことも検討してください。

**屋外への避難が無理な場合、垂直避難を行ってください**



## 避難行動判定フロー



避難所での感染リスクを低減するために、安全な親戚・知人宅やホテル等への避難も検討しましょう。